

令和3年度

所 報

Annual Report 2021



独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家

はじめに

1 所報の趣旨

この所報は、国立岩手山青少年交流の家（テンパーク）が実施している事業をひろく一般に紹介するとともに、将来の参考とするため、令和3年度中の本施設における教育事業とその内容、掲載された記事（タイトルのみ）、施設利用実績等を収録しました。

2 肖像権等の取扱い

本所報に掲載されている写真は、施設の広報に使用する目的で刊行物等に掲載することがある旨を、各事業の実施要項等にて参加者にあらかじめ通知しているものです。

令和4年5月

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立岩手山青少年交流の家

目 次

(1) 教育事業等一覧及び事業実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
教育事業等一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	1
テンパークボランティア養成事業・・・・・・・・	3
テンちゃんキャンプ・・・・・・・・	4
教員免状更新講習・・・・・・・・	6
防災キャンプ・・・・・・・・	7
テンパーク子ども食堂・・・・・・・・	9
全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」・・	10
親子ビギナーズキャンプ・・・・・・・・	12
新たな発見!!チームづくり 基本のき・・・・・・・・	14
親子日帰り事業・・・・・・・・	15
親子ウィンターキャンプ・・・・・・・・	21
自然体験活動指導者（NEAL コーディネーター）養成講習会・・	23
テンパークキャンプ場オープン・・・・・・・・	24
(2) 記事等掲載状況一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	P26
(3) 施設利用実績・・・・・・・・・・・・・・・・	P27



令和3年度教育事業等一覧

事業名	期日・場所・対象	主な内容
テンパークボランティア 養成事業	【期日】5月22日(土)～23日(日) 1泊2日 【場所】岩手山青少年交流の家 【対象】青少年教育ボランティア活動に興味関心をもつ大学生等 66名	・ボランティア活動の知識や理論 ・野外炊事 ・レクリエーション実習
テンパークボランティア 養成事業(追加)	【期日】7月11日(日) 日帰り 【場所】岩手山青少年交流の家 【対象】青少年教育ボランティア活動に興味関心をもつ大学生等 9名	・ボランティア活動の知識や理論 ・野外炊事 ・レクリエーション実習
テンパークボランティア 自主企画事業	【期日】10月30日(土)～31日(日) 1泊2日 【場所】岩手山青少年交流の家 【対象】小学3～6年生 54名	・友達づくり ・地元名産のリンゴを使ったお菓子づくり ・釣りとお魚焼き体験
教員免許状更新講習	【期日】①7月29日(木) ②7月30日(金) 【場所】岩手山青少年交流の家 【対象】幼・小教諭, 養護教諭等 ①14名 ②30名	・人間関係づくりの実習 ・自然体験活動実施上の安全に関する講義
防災キャンプ事業	【期日】9月4日(土)～5日(日) 1泊2日 【場所】岩手山青少年交流の家 【対象】小学3・4年生 1回目26名 2回目24名	・テント泊 ・野外炊事 ・コミュニケーションを学ぶワークショップ
課題を抱える青少年事業 テンパーク子ども食堂	【期日】10月9日(土)～10日(日) 1泊2日 【場所】岩手山青少年交流の家 【対象】子ども食堂を利用している 小学校4年生～中学生 21名	・野菜の収穫体験 ・ファーストエイド・オリエンテーリング ・調理実習 ・釣り体験
課題を抱える青少年事業 テンパーク母と子のトレッキング	【期日】中止 【場所】岩手山青少年交流の家 【対象】母子家庭 10家族20名程度	・野外炊事 ・鞍掛山登山
全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」	【期日】5月下旬～2月 【場所】岩手山青少年交流の家 那須甲子青少年交流の家 【対象】雫石高校、葛巻高校に在籍している高校生	・全国高校生体験活動顕彰制度へ参加

親子ビギナーズキャンプ	【期日】 7月3日(土)～4日(日) 1泊2日 【場所】 岩手山青少年交流の家 【対象】 3歳から小学3年生までの子どもとその家族 79家族300名	・テント設営とテント泊 ・野外炊事 ・アウトドアギア体験会
親子ウインターキャンプ	【期日】 令和4年1月15日(土)～16日(日) 1泊2日 【場所】 岩手山青少年交流の家 雪石スキー場 【対象】 6歳～小学3年生の子どもとその保護者 家族 13組42名	・スキー体験 ・雪を使った自然体験活動
新たな発見!!チームづくり 基本のき	【期日】 11月6日(土)～7日(日) 1泊2日 【場所】 岩手山青少年交流の家 滝沢市北部コミュニティセンター 【対象】 バレーボールを行っている中学生 男女 計42名	・チームワークの大切さを考える活動 ・バレーボール技術の練習
親子日帰り事業 ①謎解き 1089 探偵団 ②テンパークスタンプラリー31 ③テンパークスタンプラリー46 ④テンパークスタンプラリー ・スノーシュー	【期日】 ※全て日曜日開催 ①6月13日、20日、27日、7月4日 315家族 1,075名 ②9月12日、19日、26日 518家族 1,803名 ③10月10日、17日、24日 285家族 940名 ④1月9日、16日、23日 119家族 449名 【場所】 岩手山青少年交流の家 【対象】 幼児・小学生とその保護者	・1089 探偵団は、館内に設置されたチェックカードを頼りに謎解きをする活動 ・スタンプラリーは、敷地内に設置されているスタンプを探す活動
NEAL 自然体験活動指導者 コーディネーター養成研修	【期日】 11月29日(月)～12月3日(金) 4泊5日 【場所】 岩手山青少年交流の家 【対象】 インストラクターの資格をもつ成人 計5名	・自然体験活動指導者コーディネーター資格取得のための講義と演習

事業実施報告

開催日	令和3年5月22日(土)～5月23日(日)、7月11日(日) ※7月11日は、コロナの感染拡大のため5月の事業に参加できなかった岩手大学の学生を対象に代替として行ったもの。		
事業名	テンパークボランティア養成事業		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	74名
対象	青少年教育ボランティア活動に興味関心をもつ大学生、社会人等		
関係機関名	日本赤十字社岩手県支部、株式会社大塚製薬工場		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

参加者が、青少年教育ボランティア活動に必要な知識・技術を主体的に身に付けることができるよう、ボランティア活動体験が豊富で高い専門性をもつ大学教員や講演経験豊富な民間企業人材等を講師に招聘し、講義・演習を行った。

「ボランティア活動の意義」、「青少年教育」の講師には、ボランティアについての造詣が深く、自身のボランティア経験も豊富な東北学院大学地域連携センターの渡邊圭氏を招聘した。事前に、法人ボランティアを交えたオンラインミーティングを実施し、ボランティアの意見をプログラムの中に反映させ、ボランティアの参加動機や自己有用感が高まるようにした。講義の初めには、初対面の参加者同士が緊張を解いて講義に臨むことができるようアイスブレイクを行い、主体的に意見交換をしながら活動できるようにした。「安全管理」では、株式会社大塚製薬工場の盛越琢朗氏に熱中症予防対策について、日赤岩手県支部指導員の方々に救急救命法について講義・演習をしていただいた。熱中症予防対策では、具体的な事例を多く紹介したり、クイズ形式を取り入れたりするなどし、参加者が最後まで興味関心をもって講義・演習に臨めるようにした。救急救命法では、演習に多くの時間を割き、反復する中で救命法を身に付けることができるよう配慮した。

〔成果〕

参加者同士が協力・協調する中で課題解決に向かっていかなければならない場面を多く設けたことにより、主体的、意欲的にプログラムに取り組む姿が多く見られた。東北学院大学・渡邊氏の講義が、ボランティア活動の意義について深く考えることができる内容構成になっており、今後、参加者がボランティアをしていく上での原点となっていくことが期待できる。参加者74人中60人が法人ボランティア登録をしており、本事業の参加者に対して、青少年ボランティア活動の意義や魅力を伝えることができたように感じている。また、班にひとりずつボランティアを付けたことで、法人ボランティアが参加者に寄り添うかたちで活動を補助することができた。参加者に、青少年ボランティアの手本を示す上でも、ボランティア自身の経験値を高める上でも、理想的な態勢で事業を進めることができた。

7月11日には、コロナの感染拡大で5月のボランティア養成事業に参加できなかった岩手大学の学生を対象に代替事業を実施し、8名が参加した。今後も、今年度の活動をとおして得た広報のノウハウをいかし、より多様な人材を積極的に獲得していきたいと考えている。

〔課題〕

青少年教育ボランティアの養成という事業の趣旨を踏まえると、参加者の「就寝時間を守らない」、「野外炊事で軍手を着用しない」等の態度は看過できない場面であったが、それを毅然とした態度で指導できていた法人ボランティアは見られなかった。事業の中には、ある程度大目に見て構わない場面と、それでは済ませられない場面とがあり、どのような場面がどちらにあたるのかという認識を、職員と法人ボランティアとの間で十分に共有できていなかった。事業の趣旨を、法人ボランティアを含むスタッフ全員で、事前に十分に共有する必要性を改めて感じさせられた。また、「ボランティア活動の技術」の場面では、野外炊事の他に、テントの設営・撤収の方法も身に付けさせることも検討していく必要があるように思われる。

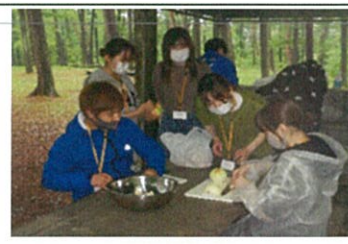
状況写真



講義・演習



講義・演習



野外炊事



熱中症予防対策



救急救命法



救急救命法

事業実施報告

開催日	令和3年10月30日（土）～10月31日（日）		
事業名	テンちゃんキャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	54名
対象	盛岡市・滝沢市・八幡平市・雫石町内の小学3年生～6年生		
関係機関名	行徳養魚場、みんなのクッキングレッスン		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

1泊2日の日程で、リンゴのお菓子作り・テンちゃれんじピック（ミニ運動会）・魚釣り・ネイチャーゲームの4つのプログラムを行った。

リンゴのお菓子作りでは、法人ボランティアが、地域の特産品であるリンゴについて寸劇で説明し、参加者の興味関心を高めた。また、滝沢市内で料理教室を主宰する方を講師にお招きし、家庭でも手軽にできるお菓子作りを体験させることが出来た。テンちゃれんじピックでは、〇×クイズ・キンボール・パイプラインの3種目を班対抗で行った。〇×クイズでは、岩手のリンゴや翌日に行われる魚釣り体験に関わる問題も出題し、それぞれの体験が深まるよう工夫したことにより、参加者は意欲的に活動に参加していた。魚釣り体験では、狭い活動場所の中で混乱無く活動を終えることが出来るか懸念されたが、ボランティアの入念な事前準備により、活動をスムーズに終わることができた。ほとんどの参加者が魚釣りをするのは初めてで、魚を釣り上げたときの笑顔が大変印象的であった。ネイチャーゲームでは、リスに食べられた松ぼっくりを発見し歓声をあげる子供たちの姿が見られるなど、参加者が身近にある自然の豊かさに改めて気付く活動にすることが出来た。

〔成果〕

・事業後の参加者アンケートでは、事業全体に関する満足度について、100%の参加者から「満足」「やや満足」の評価を得ることが出来た。

・法人ボランティアが、各プログラム毎に担当を決め、それぞれ丁寧に準備を進めたことにより、参加者から「ボランティアの人たちが、全力で支えてくれたことに感動した」「岩手のことをたくさん知ることができてよかった」「初めて会った人や学年がちがう人とたくさん交流できて楽しかった。私たちをサポートしてくれたボランティアの皆さんもやさしくしてくれた。自然とふれあうことができて、とてもいい内容だった」「リンゴがきれいだったけれど、とてもおいしかったので家でも作りたいと思った」等々、活動からたくさんのことを学び、満足した様子うかがえる感想が多く寄せられた。

・昨年度から、「地域の魅力を仲間と共に」を企画運営の基本概念として、地域人材や特産品を活動の中に取り入れてきたが、昨年度の経験を経て、このことが子どもに体験活動をさせる上で大きな有用性をもつということが、ボランティアの中に浸透してきているように感じる。ボランティアの中からも、「来年度以降もこのスタイルを継続させていきたい」という意見が聞かれた。

・ボランティアが主体となって、事業当日の運営をすることができた。特に安全管理においては、参加者の健康状態等についての、報告・連絡・相談がよくなされ、途中体調不良を訴える参加者が数名いたものの、全員が無事全日程を終えることができた。

〔課題〕

・予算の執行や地域人材との渉外については、ほとんど職員が主体となった。来年度以降、この部分についてもボランティア主体で行えるよう指導していく必要がある。

・全体運営に支障は無かったものの、会次第や参加者に感想を求める場面においては、よりよい方法があるように感じられた。来年度以降、場面場面における質の向上をボランティアに心がけさせたい。

状況写真



友達づくり



リンゴのお菓子作り・寸劇



リンゴのお菓子作り・調理中



テンちゃれんじピック



魚釣り



ネイチャーゲーム

令和3年度 国立岩手山青少年交流の家 教育事業
テンパークボランティア 自主企画事業



テンちゃんキャンプ

令和3年 10月30日(土)~31日(日)

滝沢いんごを使ったお菓子づくり×魚釣り&魚焼き×

ネイチャーゲーム×テンちゃれんじびく(ミニ運動会)

= 仲間と一緒に地域の魅力を再発見!

主催 : 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立岩手山青少年交流の家

企画・運営 : テンパークボランティア

会場 : 国立岩手山青少年交流の家

対象 : 小学3年生~小学6年生(50名)

費用 : 2,500円

日程 : 受付(10月30日 12:30~13:00 交流の家 正面玄関)

解散(10月31日 14:30頃 交流の家 ホール)

※悪天候の場合、代替プログラムに変更になる場合があります。

申込締切 : 令和3年10月8日(金)

お問合せ : 国立岩手山青少年交流の家 担当: 鈴木・檜木・小笠原

TEL: 019-688-4221 FAX: 019-688-5047

E-mail iwate-vol@niye.go.jp HP <https://iwate.niye.go.jp>

〈申込はこちらから〉



詳細は国立岩手山青少年交流の家ホームページをご覧ください

※このチラシは、テンパークボランティアが作成しました。

事業実施報告

開催日	令和3年7月29日（木） 30日（金）		
事業名	令和3年度教員免許状更新講習		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	7月29日：14名 7月30日：30名
対象	旧免許状・新免許状を所持する国公立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の現職教員のうち、本年度3月末日に終了期限を迎える者と来年度3月末日に終了期限を迎える者		
関係機関名	岩手大学		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

本事業は、岩手大学と連携し教員免許状更新講習の選択領域「体験活動プログラムによる人間関係づくり」及び「安全面に配慮した自然体験活動の実践」を開設したものである。

「体験活動プログラムによる人間関係づくり」は、14名の受講者で小学校・幼稚園・保育園に在籍する教諭・保育士が多かった。講義のねらいでもある人間関係づくりの導入ということで参加者の緊張をほぐすために、自己紹介とジャンケンゲームを中心に行った。次に、グループ分け後、そのグループに対して解決すべき課題を提示し、意見を出し合いながら取り組むプログラムを行った。午後は、エレメントといわれる施設に設置してある器具を使ったプログラムを行い、グループ内の信頼関係を更に深める活動を行った。最後の講義「今なぜ体験か」では、岩手大学教員養成支援センター非常勤講師から水銀を使った物質の重さについての実験を通して体験することの重要性を学ぶ事ができていた。

「安全面に配慮した自然体験活動の実践」は、30名の受講者で幼稚園・保育園に在籍する教諭・保育士の他、福祉施設職員や高校教諭など多様であった。初めに岩手大学教育学部准教授、澤村省逸氏の「安全面に配慮した自然体験活動」の講義を受けた。講義では、野外活動で想定されるリスクとその回避について、登山を例に講義いただいた。その後、炊事場へ移動し野外炊事を通して、受講者自身が接する子ども達への指導がイメージしやすく安全に行えるようにした。

午後は、野外活動の安全配慮事項を実際にオリエンテーリングを行い、より理解を深められるように資料に基づきながら講義を行った。

両日の更新講習では、受講者が意欲的に講義に臨む姿勢が見られ、事後のアンケートにおいても、職場に戻って実践に活かしたいという感想があり概ね満足という結果であった。

状況写真



人間関係作りのゲーム



体験の重要性についての講義



安全面についての講義



安全面に配慮した野外炊事

事業実施報告

開催日	キャンプⅠ：令和3年9月4日（土）～5日（日） キャンプⅡ：令和3年10月2日（土）		
事業名	防災キャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	キャンプⅠ：26名 キャンプⅡ：23名
対象	盛岡市・滝沢市在住の小学校3・4年生		
関係機関名	東京都立大学、岩手県、滝沢市、岩手県立野外活動センター		

状 況 報 告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

本事業は、防災・減災体験学習型の防災キャンプを実施し、自然体験活動の中で自らの衣食住を営んだり、コミュニケーションワークショップで他者とかわることを通して、自らのできることは自分で実行し、難しいことは互いに補いあうことの重要性に気づくことで、防災の基本となる「自分の命は自分で守る」「お互いに助け合う」という「自助」「共助」の意識を育むことを目的に実施した。併せて、令和7年度を目途に本事業のプログラムや評価方法をモデル化し、全国の青少年教育施設や関係団体に普及されるようにするため、事業内容や評価手法を試行した。

キャンプⅠでは、1日目は自助をテーマに一人でテント設営や野外炊事を行い、2日目は野外炊事やコミュニケーションワークショップを実施した。また、防災・減災行動計画を立案し、キャンプⅡまでに実施するようにした。キャンプⅡでは、防災・減災行動計画の取組状況を共有するとともに、多様性についての学びを深めるため、お年寄りや妊婦など、個別の配慮が必要な人々を想定した避難誘導体験を実施した。

本事業の成果としては、自助・共助意識の向上を目指したプログラムに関して、一定の妥当性が確認できた点である。本事業では自助・共助の意識の高まりに焦点化するため、キャンプを2度実施するとともに、野外活動だけでなく、今まで行われてこなかったコミュニケーションワークショップや防災・減災行動計画の作成などの活動も実施した。その結果、地震などの個別の災害における具体的な対策だけでなく、災害に対する基本能力・態度（＝備え）に対する意識の向上が見られた。よって、今年度実施したプログラムが事業目的に対し概ね適切であると考えることができた。

一方、本事業の課題は、有効な評価方法が見いだせなかった点である。評価方法も普及を前提にモデル化を図るため、より簡便で誰でも使用できる方法として、防災・減災行動計画の実施状況及びキャンプⅡでの防災・減災行動計画立案状況で評価を行う予定であった。しかし、ほぼすべての参加者が上記2つを実施できたため、自助・共助意識の高まりを簡便に評価する方法としては機能しなかった。次年度以降は「キャンプで学んだこと」などの振り返りの文章を観点別に評価するなどの質的評価や、防災・減災に関する行動の程度が事業前後でどの程度変化したかを質問紙で測定する量的調査など、事業の教育効果を正確かつ簡便に測定できる方法を継続して検討する必要がある。

状況写真



テント設営



野外炊事



コミュニケーションWS



行動計画作り



実施状況の共有



避難誘導体験



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立岩手山青少年交流の家



テント設営



コミュニケーション
ワークショップ



防災 キャンプ

テント設営や野外炊事、

コミュニケーションワークショップといった活動を通して、
災害時だけではなく、日常生活でも必要となる、
「自助」「共助」の意識を高める2日間です。



炊事



火起こし



テント泊



焚き火



行動計画を立てる

キャンプⅠ 2021.9.4(土) 11:30- ▶ 9.5(日) -14:30

キャンプⅡ 2021.10.2(土) 10:00-15:00

会場／国立岩手山青少年交流の家

参加費／3,700円

対象／キャンプⅠ・Ⅱの両日程に参加可能な滝沢市・盛岡市在住の小学校3・4年生

主催／国立岩手山青少年交流の家（〒020-0601 岩手県滝沢市後292）

Tel:019-688-4221 【担当】林田・杉本・中村

下記URLもしくは右のQRコードよりお申し込みください。

【URL】<https://forms.gle/1weAhvKogR73Re158>



事業実施報告

開催日	令和3年10月9日（土）～10月10日（日）		
事業名	テンパーク子ども食堂		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	21名
対象	特定非営利活動法人インクルいわてから推薦された小学3年生～小学6年生		
関係機関名	特定非営利活動法人インクルいわて		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

～採って、作って、いわての秋を食べ尽くそう！～をテーマに1泊2日の中で、野菜や果物の収穫、釣り体験を行い、収穫物を野外で調理して食べる活動を中心にプログラムを構成した。

野菜の収穫では、近隣大学の協力を得て、収穫方法を指導いただきながら、包丁や鎌を使って収穫させていただいた。夜は収穫物を使って、栄養士の指導のもと野外で調理実習を行った。「早寝・早起き・朝ご飯」の重要性について講話いただくとともに、1日のトータルで栄養をとれるようにしていこうと励ましていただいた。

翌日は、近隣の養魚場で釣りを体験し、養魚場代表の指導を受け、一人一人がはらわたを取り、捌く体験をした。魚から血が流れる様を見て、目を背ける子もいたが、命をいただいていることに気づき、最後は感謝しておいしくいただくことができた。

〔成果〕

- ・子ども食堂を運営する特定非営利活動法人の協力を得て、周知と募集を担って頂き、支援を必要とする家庭に周知することができた。また、連携施設職員が帯同していただいたことで、当施設をはじめて利用する参加者が、安心して参加することができた。

- ・周知期間に県独自の緊急事態宣言が発出された影響で、当初は、半数しか集まらなかったが、対象年齢を広げ、宣言が解除されたのを受け、再周知をいただいた結果、定員20名の参加を得ることができた。

- ・事業後のアンケートで、事業全体に関する満足度について参加者から「満足」85%「やや満足」15%となり肯定的評価100%を得られた。

- ・事前アンケートでは「調理経験がほとんどない」が40%であった。しかし、危険を伴う実習にボランティアを配置し、手厚いサポートを行ったことで、事後には「家でも調理をやってみたい」という回答が40%となり、自信になったこと、活用意欲を持たせることができたことが読み取れる。

〔課題〕

- ・対象年齢を下げたことで、調理経験が全くない児童の割合が多くなり、野外調理は大幅に時間を超過した。対象の変化に合わせて、修正して練り直す必要があった。

- ・活動を多く設定したことで、余裕時間がなく、星空観察・たき火に十分な時間を設けることができなかったことで満足度が低くなった。次年度に向けて活動の精選が必要である。

- ・ファーストエイド・オリエンテーリングを行い、高学年からは好評であったが、中学年の理解は十分ではなかった。対象年齢に応じた再調整と精選をして十分な効果が得られるよう改善を図りたい。

状況写真



白菜の収穫



りんごの収穫



焼きりんごづくり



釣ったニジマスを自ら捌く体験



自分で捌いたニジマスにかぶりつく参加者

事業実施報告

開催日	オリエンテーション合宿 令和3年 9月22日(水) 地方ステージ 令和3年12月26日(日)	開催時間	オリエンテーション合宿 13:00～16:00 地方ステージ 9:00～16:00
事業名	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」		
開催場所	・オリエンテーション合宿 岩手県立葛巻高等学校 ・地方ステージ(オンライン開催) 国立岩手山青少年交流の家	参加人数	・オリエンテーション合宿 葛巻高校19名 ・地方ステージ 葛巻高校16名、雫石高校1名
参加学校名等	岩手県立葛巻高等学校、岩手県立雫石高等学校		
関係機関名	岩手県教育委員会		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

全国高校生体験活動顕彰制度を実施するにあたって、国立青少年教育振興機構が作成した「運営に関するガイドライン」及び「事業実施の手引き」に則り、オリエンテーション合宿の実施、地方及び全国ステージへの高校生の派遣を行うこととした。

なお、実践活動や報告書の作成にあたっては、連携する高等学校等の全面的な協力を得ることとした。国立岩手山青少年交流の家は、全国高校生体験活動顕彰制度に参加した高校生が、地域の課題を解決するアクションを作成し、その実践をもとに日本や世界の課題を解決するアクションを考え、実践することができるような思考力、判断力、表現力の育成を図った。

今年度のオリエンテーション合宿は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期と実施内容の変更を余儀なくされ、高校での1日開催で実施した。

オリエンテーション合宿では、「ガイダンス」と「実践活動のためのガイダンス」を行った。カリキュラムの実施については、高校の担当教諭から「総合的な探究の時間」での実施内容と成果の報告を受けて読み替えることとした。また、地方ステージ出場に際しては、高校との連絡調整、発表に向けた事前指導やリハーサルを実施し、プレゼンテーションを通して高校生の学びが深まるように支援を行った。

〔成果〕

事業終了後の振り返りでは、「1年間を通してたくさんの関係者と触れ合う中で新しい発見と魅力の再認識ができた。」「このプログラムに参加して、仮説を立てること、考えること、答えのない問題に取り組むこと、仲間と協力すること、自分たちが楽しんで行うことの大切さを学んだ。」「コロナの影響でこれからも制限された中での活動が多いと思うが、何ができるか考えてこれからも活動していきたい。」など、探究活動を通して地域の価値を見つめ直すとともに、今後もさらに学びを深めたいという感想が聞かれた。

地方ステージの振り返りにおいても、「自分にとって素晴らしい体験となった。次も参加したい。」「他県の活動は初めて聞くことが多くて楽しかった。」「他の学校や地域の発表を見ることがなかったので勉強になる部分が多かった。質問を受けて気付けることが多くあった。」など、他県の高校生からのフィードバックによって、アクションの軌道修正や動機付けにつながったという感想が聞かれた。

1年生から2年生にかけて系統性を持ち探究活動に取り組んでいたため、1学年で取り組んだ活動もカリキュラムに含めて読み替えることができた。このことによって実践活動の時間確保や11月末の報告書提出に余裕をもって取り組むことができた。

地方ステージの実施にあたり、ニュースリリースを行い探究活動に取り組む高校生を社会が評価し機運が高まるように取り組んだ。

〔課題〕

・青少年教育施設での合宿の必要性について

年間計画に基づいて総合的な探究の時間に取り組んでいる高校にとって、合宿の必要性は感じていない。今後は青少年教育施設での合宿のあり方について、高校側の要望に合わせながら方法や内容を検討していく必要がある。

・オリエンテーション合宿のカリキュラム内容について

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、オリエンテーション合宿を計画通りに行うことができなかった。そのため、「フィールドワーク①」はオリエンテーション合宿前に高校周辺地域で行うこととなり、オリエンテーション合宿で実施できるカリキュラムが限定される状況となった。オリエンテーション合宿のカリキュラム内容については、これまで高校で取り組んできた学習の流れに沿ったものとなるように高校側と調整しながら進めていく必要がある。



ガイダンス



グループでの話し合い



個人部門の発表



グループ部門の発表

事業実施報告

開催日	令和3年7月3日（土）～7月4日（日）		
事業名	親子ビギナーズキャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	79家族(300名)
対象	3歳から小学3年生までの子どもとその家族		
関係機関名	ワイエス株式会社グリーンハウス盛岡		

状 況 報 告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

A・B・Cの3つの日程に分かれ、1泊2日の中でテント設営・野外炊事・たき火体験・アウトドアギア体験会の4つのプログラムを行った。

テント設営は、キャンプ場と体育館に分かれて行った。体育館のテント設営では、館内テント泊の参加者だけでなく宿泊室に泊まる参加者もテントを建てる体験をし、建てたテントに入りうれしそうに記念撮影する姿も見られた。

野外炊事では、火起こしに苦戦する参加者が多かったが、職員やボランティアのサポートにより予定されていた時間内に調理を終え、自分たちで作ったカレーをおいしそうにほおぼっていた。

たき火体験では、家族ごとにたき火台に火をおこし、たき火を見つめながらゆったりとした時間を過ごしたり、マシュマロを焼いたりして楽しんだ。

アウトドアギア体験会では、テントやチェア、バーベキューコンロなど人気のアウトドア用品の展示やグリーンハウス盛岡の店長によるアウトドア用品の説明が行われた。

〔成果〕

・体験の難易度に合わせて、屋外テント、館内テント、宿泊室と宿泊場所を選択できるようにしたことで、キャンプ体験の敷居を下げることができ、20家族80名程度の定員に対し、133家族457名もの応募があった。

・定員を86家族300名程度に変更し、全体を3つの日程に分けて実施したことにより、多くの参加希望者のニーズに応えることができた。

・事業後のアンケートで、事業全体に関する満足度について98%以上の参加者から「満足」「やや満足」の評価を得られた。

・各日程に複数の職員やボランティアを配置し、手厚いサポートを行えたことにより、参加者から「初心者でも安心して参加できた」「丁寧な説明がわかりやすかった」「たくさん手伝ってもらえて助かった」などの感想が多く得られた。

・全ての家族に宿泊室を割り当てていたため、荷物置場や休憩場所として使うことができ、キャンプ場や館内テント泊を希望されていた参加者からも「荷物を置いておく場所があって助かる」「悪天候でも泊まる場所があって安心した」などの感想が聞かれた。

・事業後のアンケートで約80%の参加者が「今後、家族で自然体験活動を行いたい」と回答しており、体験活動を継続的に行うきっかけ作りの役目を果たすことができた。

・ビギナーズキャンプに参加した家族で、後日キャンプ場泊を利用した家族が4家族あった。

〔課題〕

・事業の事前・事後スケジュールを見直し、事業で使用する場所の環境整備も計画的に行えるようにする。

・職員・ボランティアマニュアルを早めに作成し、全職員で事業について共通理解を図り、物品の点検や準備から全職員で効率的に行えるようにする。

・アウトドアギア体験会では、展示や説明だけでなく、実際にアウトドア用品を使った活動ができるように内容を再検討する。

状況写真



テント設営



家族で作ったカレーライス



アウトドアギア体験会



野外炊事



たき火体験



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立岩手山青少年交流の家

親子でキャンプやアウトドアアクッキングに挑戦してみませんか？
アウトドア用品の体験会もあるよ！



親子 ビギナーズ キャンプ

2021.7.3(土) 10:00- ▶ 7.4(日) -12:30

会場 / 国立岩手山青少年交流の家

※詳細は裏面をお読みください。

主催：国立岩手山青少年交流の家
(企画・運営：みちのく「体験の風をおこそう」運動実行委員会)

事業実施報告

開催日	令和3年11月6日（土）～11月7日（日）		
事業名	新たな発見！！チームづくり 基本のき		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家 滝沢市北部コミュニティセンター	参加人数	42名（男子15名、女子27名）
対象	バレーボールを行っている岩手県内の中学生		
関係機関名	岡崎建設Owls 後援：岩手県教育委員会、岩手県中学校体育連盟、岩手県バレーボール協会		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

岡崎建設Owlsと連携し、バレーボールを通じて参加する青少年の交流を深め、仲間意識や連帯感を高めることを目的に1泊2日の日程で事業を実施した。事業には男子15名、女子27名が参加し、事前調査で確認した個人の課題や学びたいスキルの内容を踏まえて、男子2チーム、女子4チームに編成を行い活動を行った。

1日目は午前中に青少年交流の家の職員を中心にバレーボールの準備運動を兼ねた交流活動（PA）を行い、参加者間の交流を促進した。午後は、岡崎建設Owlsの選手が各チームに入り、事前調査で確認した内容を踏まえて、参加者の実態に合わせてバレーボールの指導を行った。夕食後にはミーティングを行い、1日の振り返りの中でチームメイトの良かったところを再確認し、翌日の交流戦に向けてチームの団結を深めた。

2日目は男女別で交流戦を行い、2日間の活動の成果を確認した。

〔成果〕

- ・事業後の参加者アンケートで、事業全体に関する満足度について、すべての参加者から「満足」「やや満足」の評価を得ることができた。
- ・岡崎建設Owlsとの打ち合わせを通して事業の趣旨を共有することができた。参加者から「改めてチームプレイにはコミュニケーションが大切だと思った」「交流の仕方やチームの作り方が分かった。これからチームに戻っても活かしていきたい」という感想が多々寄せられるなど、バレーボールを通じて参加する青少年の交流を深めるという事業のねらいに沿った活動を行うことができた。
- ・引率者から、「機会があればまた子どもたちを参加させたいと思った。レベルに合わせて教えていただいたので子どもたちが成長できた所がとても多かった」「基本の意識しなければいけない部分を改めて確認でき、この事業に生徒を参加させて良かった」という感想をいただいた。

〔課題〕

- ・募集人数50名に対し42名の参加者であり、定員を満たすことができなかったことから、日程や周知方法等の検討を行いたい。
- ・バレー支柱用の緩衝マットやアンテナが劣化していた。安全面からも次回実施までにバレー用具の更新を行いたい。

状況写真



準備運動を兼ねた交流活動



チームビルディング



チームミーティング



練習成果の確認ゲーム



表彰



集合写真

事業実施報告

開催日	第1弾:令和3年6月13日(日)、20日(日)、27日(日)、7月4日(日) 第2弾:令和3年9月12日(日)、19日(日)、26日(日) 第3弾:令和3年10月10日(日)、17日(日)、24日(日)							
事業名	親子日帰り事業 (第1弾謎解き1089探偵団、第2弾テンパークスタンプラリー31、第3弾テンパークスタンプラリー46)							
開催場所	国立岩手山青少年交流の家							
参加人数	第1弾	6月13日 6月20日 6月27日 7月 4日	83家族293名 76家族257名 66家族230名 90家族295名	合計 315家族 1075名	第3弾	10月10日 10月17日 10月24日	91家族306名 54家族173名 140家族461名	合計 285家族 940名
	第2弾	9月12日 9月19日 9月26日	193家族682名 183家族636名 142家族485名	合計 518家族 1,803名	合計	1,118家族 3,818名		
対象	幼児・小学生とその保護者							
関係機関名	なし							

状 況 報 告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)	
〔事業の内容〕 ・第1弾「謎解き1089探偵団」では、館内に設置された80枚のチェックカードのうち50枚のチェックカードを地図を見ながら探し出し、チェックカードに書かれてある「ひらがな」を並べ替えて謎解きをするという活動を行った。問題用紙は、探し出すチェックカードや謎解き問題の異なる3種類を作成し、難易度の低いものから「新人探偵」「探偵」「名探偵」とした。また、探し出すチェックカードの組み合わせと謎解き問題を毎回異なるものを提供した。 ・第2弾「テンパークスタンプラリー31」、第3弾「テンパークスタンプラリー46」では、国立岩手山青少年交流の家の敷地内にスタンプを設置し、スタンプ台紙『1089(テンパーク)冒険記』に押印するという活動を行った。第2弾では35個のスタンプ、第3弾では50個のスタンプを設置した。第3弾に増設したスタンプは、日帰り事業第1弾のチラシ裏面及び国立岩手山青少年交流の家ホームページに応募用紙を掲載し、子どもからデザインを募集した。募集したデザインの中から15個をスタンプデザインとし、スタンプにならなかったデザインは館内掲示を行った。スタンプが入った箱は、敷地内の木や看板、植え込みに固定もしくはぶら下げて設置した。 ・親子で協力して探す様子や、全て探し出すため、家族間で情報共有する様子が見られた。また、複数回本事業に参加し、コンプリートを目指して取り組む様子も見られた。 〔成果〕 ・第1弾「謎解き1089探偵団」315家族、1,075名。第2弾「テンパークスタンプラリー31」518家族1,803名。第3弾「テンパークスタンプラリー46」285家族940名。合計1,118家族3,818名の参加者があり、多くの参加者にプログラムを提供することができた。 ・第1弾「謎解き1089探偵団」では、難易度毎に毎回違う謎解き問題(12種類)を作成したことで、幅広い年齢層が楽しめるプログラムにできた。 ・第2弾「テンパークスタンプラリー31」、第3弾「テンパークスタンプラリー46」では、散策中の気づきを記入する欄を設けたことで、自然への興味関心を高めることができた。 ・第3弾「テンパークスタンプラリー46」において、スタンプを15個追加したことや、スタンプの位置を一部入れ替えたことで、2回以上参加した参加者も十分に楽しむことができた。 ・テンパークスタンプラリー46では、謎解き1089探偵団を同時開催し、天候状況や参加者の希望によって活動を選択できるようにした。 ・新型コロナウイルスの感染対策として、受付時における消毒・検温、マスクの着用、活動内容説明時のアクリル板の使用、活動場所や使用物品の消毒、説明場所での三密回避等を重点的にを行い、安心して利用できる環境を整備することができた。 ・近隣4市町の小学校へのチラシ配布、地方情報誌イベント欄への掲載、ホームページにおけるチラシの掲載を通して広報を行った。今回参加のあった1,118組の家族のうち1,039組の家族はチラシ配布を行った小学校の参加者で、全体の92.5%であった。 〔課題〕 ・今後は利用者が分かりやすく楽しめるプログラムとなるように、説明マニュアルや提示する資料に修正を加え、活動プログラムとして利用団体に提供できるようにしていく。 ・チェックカードの設置場所やデザインについて、不具合があれば適宜修正・改善していく。また、採点できるようにし、利用者が目標をもって取り組めるように改善を図る。 ・スタンプが入った箱の設置場所や設置個数について、不具合があれば適宜修正・改善していく。 ・活動プログラムとして提供する際は、年齢や気候状況に応じて、スタンプラリー31とスタンプラリー46のどちらかを選択できるようにしていく。	

第1弾 謎解き1089探偵団の様子



活動内容の説明



低いところは子どもたちで



親子で搜索



兄弟で作戦会議

第2弾 テンパークスタンプラリー-31、第3弾 テンパークスタンプラリー-46の様子



活動内容の説明



森の中も搜索



姉妹で力を合わせて



みんなで発見



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立岩手山青少年交流の家

なぜとあ
謎を解き明かせ！
／
テンパーク かく
1089に隠されたヒントを探しだし、



なぜと
第1弾 謎解き

さん か ひ
参加費
り りょう
無料

テンパーク たん てい だん
1089探偵団

2021

6/13日・20日・27日・7/4日

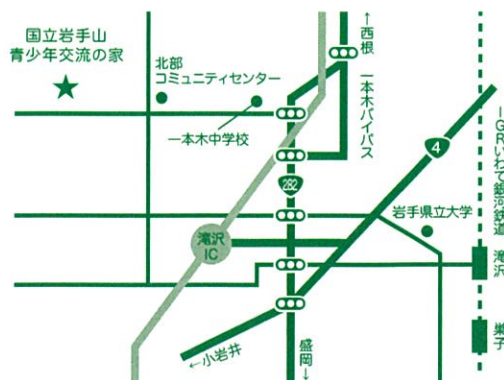
9:00~16:00 (最終受付 15:00) 対象/幼児・小学生とその保護者 持ち物/上履き

会場/国立岩手山青少年交流の家 〒020-0601 岩手県滝沢市後292

お問い合わせ/Tel: 019-688-4221 MAIL: iwate-kikaku@niye.go.jp
(担当)工藤・晴山・小泉・柱

※事前の申し込みは不要。当日、岩手山青少年交流の家にお越しください。

主催/国立岩手山青少年交流の家
(企画・運営: みちのく「体験の風をおこそう」運動実行委員会)





独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立岩手山青少年交流の家



2021. 9.12(日) / 9.19(日) / 9.26(日)

9:00-16:00
(最終受付 15:00)

参加無料

国立岩手山青少年交流の家
〒020-0601 岩手県滝沢市後292

【対象】幼児・小学生とその保護者 【持ち物】帽子、飲み物、雨具等(屋外での活動のため)

【荒天時】「謎解き1089探偵団SP」を代替プログラムとして実施します。その際は、上靴を持参ください。【申込・受付】事前の申し込みは不要。当日、岩手山青少年交流の家にお越しください。

【主催】国立岩手山青少年交流の家(企画・運営:みちのく「体験の風をおこそう」運動実行委員会) Tel:019-688-4221 MAIL:iwate-kikaku@niye.go.jp (担当)工藤・晴山・小泉・柱



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立岩手山青少年交流の家

テンパーク スタンプラリー

だい
第3弾

46

こ いじょう あつ
自然の中に隠されたスタンプを46個以上集め、
おやこ ともだち しぜん たいけん たの じっかん
親子・友達と自然体験の楽しさを実感してみよう！

しょうがくせい おう ぼ
小学生から応募のあった
スタンプデザインの中から、
さくひん
15作品がスタンプになって
かく
隠されているよ！

2021.10.10 ㊤ / 10.17 ㊤ / 10.24 ㊤ 9:00-16:00
(最終受付 15:00)

参加無料

国立岩手山青少年交流の家
〒020-0601 岩手県滝沢市後292

【対象】幼児・小学生とその保護者 【持ち物】帽子、飲み物、雨具等(屋外での活動のため)

【荒天時】「謎解き1089探偵団SP」を代替プログラムとして実施します。その際は、上靴を持参ください。【申込・受付】事前の申し込みは不要。当日、岩手山青少年交流の家にお越しください。

【主催】国立岩手山青少年交流の家(企画・運営:みちのく「体験の風をおこそう」運動実行委員会) Tel:019-688-4221 MAIL:iwate-kikaku@niye.go.jp (担当)工藤・晴山・小泉・柱



テンパーク
1089

スタンプラリー スノーシュー



スノーシューをはいて自然の中に隠されたスタンプを集め、
親子・友達と自然体験の楽しさを実感してみよう！



こちらも開催！

謎解き

テンパーク 1089 探偵団

2022.1.9① / 1.16① / 1.23① 9:00-16:00
(最終受付 15:00)

参加無料

国立岩手山青少年交流の家
〒020-0601 岩手県滝沢市後292

【対象】幼児・小学生とその保護者

【持ち物】飲み物、防寒具、長靴等(屋外活動)※希望者には、スノーシューを貸し出します。

「謎解き1089探偵団」(屋内活動)参加希望者は上靴をご持参ください。

【申込・受付】事前の申し込みは不要。当日、岩手山青少年交流の家にお越しください。

主催・お問合せ／国立岩手山青少年交流の家

Tel: 019-688-4221 MAIL: iwate-kikaku@niye.go.jp

(担当) 工藤・晴山・小泉・柱

事業実施報告

開催日	令和4年1月15日（土）～令和4年1月16日（日）		
事業名	親子ウインターキャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家 雫石スキー場	参加人数	13家族42名
対象	スキーが苦手な6歳～小学校3年生の子どもとスキー初心者の保護者		
関係機関名	インターアルペン雫石スキースクール（事前指導・スキーレッスン）		

状況報告 （事業の内容・事業の成果と課題について記載）

〔事業の内容〕

1泊2日の日程で、手作りそり作り・そり滑り・インターアルペン雫石スキースクール講師による事前指導・同講師による家族ごとのスキーレッスンの4つのプログラムを行った。

手作りそり作りでは、段ボールやブルーシート、緩衝材、ビニール袋等を使用して、家族ごとにそりを作りした。家族3、4人が乗ることができる大きなものや屋根を付けたものなど、家族ごとに様々な創意工夫が見られ、親子で共通したものづくりを楽しんでいる様子が見られた。

そり滑りでは、制作した手作りそりを使用し、職員の安全管理のもと、家族ごとに楽しんだ。

スキースクール講師による事前指導では、体育館に敷いたマットの上で、講師の指導のもと、実際にスキーを着脱したり、スキーを履いて方向転換をしたりした。

スキースクール講師による家族ごとのスキーレッスンでは、雫石スキー場に移動し、前日の事前指導で学んだことを生かしながら実際にスキーを行った。講師の指導の中で、子どもへの技術的な指導だけでなく、親へスキー場での子どもとの関わり方を伝えている場面が見られた。

〔成果〕

- ・事業後のアンケートにおいて、「今後、家族でスキーを行おうと思いますか」の設問に対して、「したい」「ややしたい」を合わせて100%であった。これにより、家族での体験活動を継続して行いたいという意欲を高めることができたといえる。

- ・抽選の結果、当選から漏れた家族をすべてキャンセル繰り上げ対象者としたことで、参加者の減少を極力防ぐことができた。

- ・新型コロナウイルスの影響により、社会教育実習生が事業に参加できなくなったため、急遽職員のみで事業運営をすることとなった。しかし事前に各職員の配置をすべて割り振ったため、円滑に事業を進めることができた。事業後のアンケートでは、職員の対応に関する満足度は100%であった。

- ・スキー講師による事前指導によって、雪上で必要な動作を事前に確認できた。それにより、スキーレッスンをスムーズに始めることができた。

〔課題〕

- ・スキーレッスンの目的は、講師がいなくても家族でスキーを楽しめるようにすることである。子どもに技術的なアドバイスをするのではなく、親がスキー初心者の子どもとスキーを楽しむための関わり方をスキー講師から積極的に伝えてもらえるよう、インターアルペン雫石スキースクールと綿密に打ち合わせをする。

- ・事前事後スケジュールを見直し、購入物品の購入や関係機関との打ち合わせを早期に行えるようにする。
- ・体育館等の特定の場所を事業で使用する際は、会場設営や撤去作業までを考え、余裕を持った時間で活動場所を押さえるようにする。

- ・初めての試みとして、事業アンケートをGoogleフォームを用いて行った。Googleアカウントにログインできないという家族が1家族あり、郵送で回答いただくよう対応した。回答方法をあらかじめ十分に参加者に周知する。

状況写真



様々な工夫を凝らして手作りそりを制作



スキー講師の指導のもと、スキーの基本を学ぶ



自分たちの手作りそりでそり遊びを楽しむ



ゲレンデで家族ごとにレッスンを受ける



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立岩手山青少年交流の家

親子 ウィンター キャンプ

1. オリジナルのソリ作り

身近にあるダンボールやビニール袋を使って
ソリを作ってみよう!

2. スキーレッスン

1家族にスキー講師が1人ついてレッスン!
家族みんなで楽しくすべろう!

2022.1.15 SAT 11:30- ▶ 1.16 SUN -12:30

会場 / 国立岩手山青少年交流の家・雫石スキー場

【対象】スキーが苦手な6歳～小学校3年生の子供とスキー初心者の保護者

【参加費】大人 4,700円 子供(小学生) 2,500円 (未就学児) 2,200円

※スキー用品をレンタルする方は、別途レンタル代がかかります。

【主催】国立岩手山青少年交流の家(企画・運営:みちのく「体験の風をおこそう」運動実行委員会)

〒020-0601 岩手県滝沢市後292 Tel:019-688-4221 MAIL:iwate-suishin@niye.go.jp (担当) 晴山・上村・小泉

▼ お申し込みはこちらから ▼

下記URLもしくは右のQRコードより
お申し込みください。

<https://bit.ly/3vtOgdw>



事業実施報告

開催日	令和3年11月29日（月）～12月3日（金）		
事業名	自然体験活動指導者（NEALコーディネーター）養成講習会		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	5名
対象	自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター）資格を有する者		
関係機関名	青木 康太朗 氏（國學院大學）、青山 鉄兵 氏（文教大学）、佐々木 豊志 氏（青森大学） 吉田 信一 氏（盛岡市立杜陵小学校）、吉松 梓 氏（新潟医療福祉大学）		

状況報告 （事業の内容・事業の成果について記載）

1. 事業内容

本事業の趣旨は、全国体験活動指導者認定委員会自然体験活動部会が定めたカリキュラムに沿った講義・実技を行うことを通して、自然体験活動に関する専門的知識及び技能を身に着けることで、自然体験活動事業を企画・運営・評価できるとともに、事業全体の安全管理を行うことができる指導者を養成することであった。

講義・実技では、カリキュラムに定められた「青少年教育における体験活動」「学校教育における体験活動」「自然体験活動における安全管理」「自然体験活動の指導」「対象者理解」「自然体験活動の特質」「自然体験活動の企画・運営」の7つのコマ（計27時間）を実施した。本事業で養成する自然体験活動総括指導者は事業全体を総括する役割を担うことになるため、事業中の事柄に限らず、関係団体との連携の在り方や事故時の事法的責任など、幅広い分野について学んだ。また、NEALリーダーやNEALインストラクターの指導を行う立場でもあるため、組織作りやマネジメントの方法、事業の反省会場面を想定したロールプレイングなど、他のスタッフを指導する実際についても学びを深めた。

参加者からも「今後事業を実施していく上で役立つことが多くあってよかった。」「インプットだけでなく、アウトプットの機会があったことで、講義内容を整理することができた」などの感想が聞かれた。

2. 事業の成果

・事業実施の半年前から講師の選定や講義内容の打ち合わせを行ったことで、講義内容について詳細まで検討することが可能となり、参加者にとってより分かりやすい講義を展開することができた。

・講義を一方的に聞くだけでなく、講義中にディスカッションの時間を意図的に多く設定したり、1日の最後に振り返りの時間を設けたことで、事業内容の理解がより深まった。

3. 事業の課題

・参加者が5名であり、少人数での開催となった。受講資格を持つ者の絶対数が少ないことや新型コロナウイルス感染症の影響で出張が控えられているという現状はあるものの、予算規模を考えれば当初定員に設定した15名程度の参加者が集まるよう、NEAL事務局からも広報を依頼するなどの策を講じる必要がある。

状況写真



青山先生の講義



吉田先生の講義



青木先生の講義



吉松先生の講義



佐々木先生の講義



ディスカッション

テニパークキャンプ場

1. 期間 令和3年7月～9月（土・日限定）
2. 場所 国立岩手山青少年交流の家
曲り家周辺のテントサイト
3. 設備 テントサイト：6 炊事場：あり
トイレ：あり（水洗） 電気：なし
その他：キャンプ用具や野外炊事の
道具の貸出は行わない
4. 料金 無料



図1 「アキュート掲載チラシ」

利用状況

1. 利用者数
宿泊12団体34名、日帰り6団体20名 合計18団体54名
2. 広報の工夫
アキュート8月号、9月号に掲載（図1）
ホームページで周知
YouTubeで利用の仕方について紹介
3. 利用の様子





独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立岩手山青少年交流の家

／ オープン!! ／ テンパーク キャンプ場

家族や友人などでの
テント泊やバーベキュー OK！

ソロキャンプも
OK！

キャンプの道具や食材は
全て持ち込みOK！

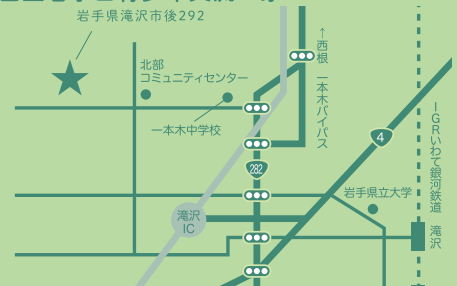
利用料
無料

7月から9月の
土日限定

当日予約
17:00
までOK！

キャンプ場をご利用したい方は、国立岩手山青少年交流の家
Tel 019-688-4221までお電話でお申し込み下さい。

国立岩手山青少年交流の家
岩手県滝沢市後292



企画・運営：みちのく「体験の風をおこそう」運動実行委員会



＼YouTubeはじめました！／

 **YouTube テンちゃんねる**

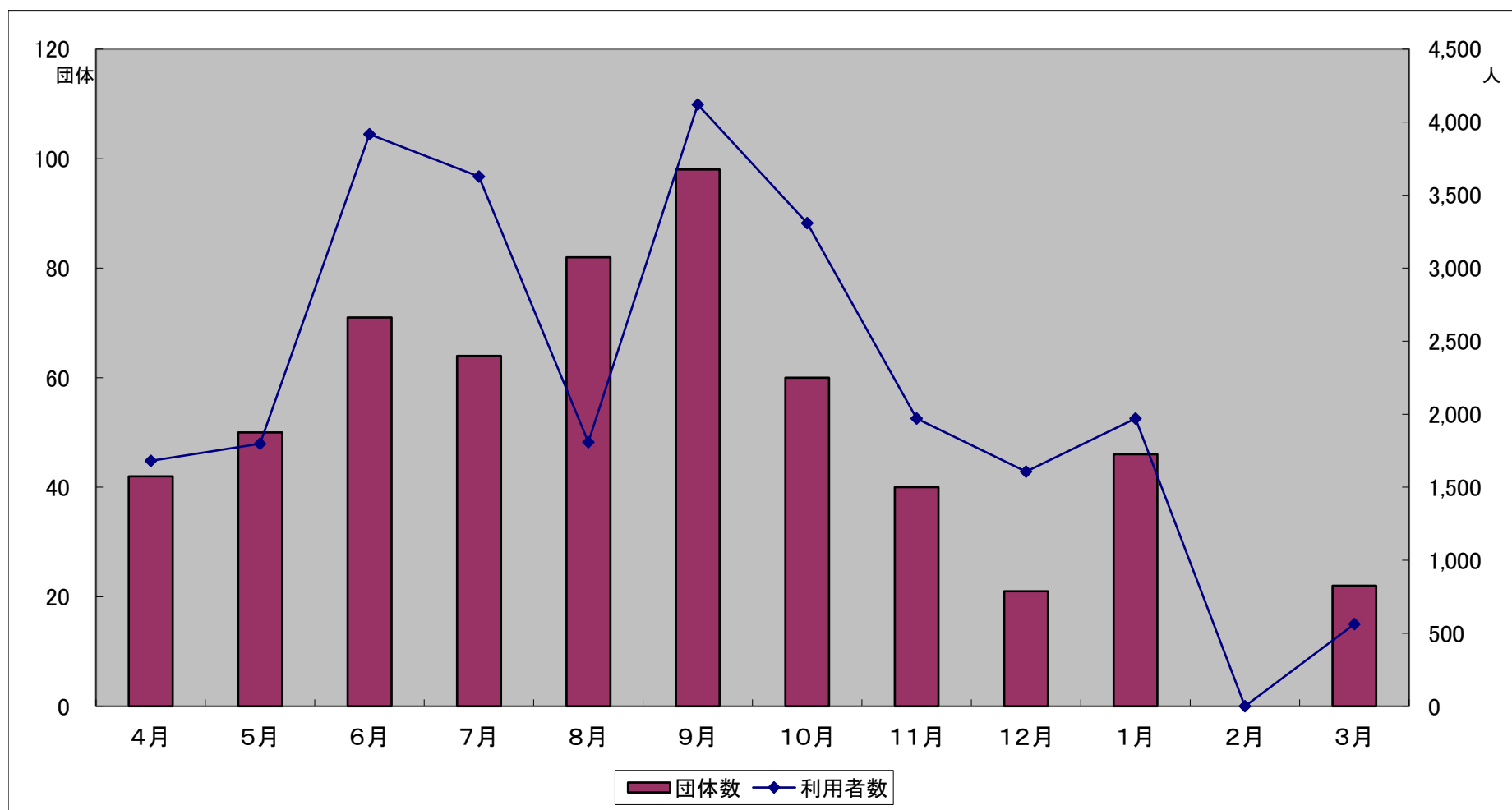


YouTubeでアウトドア情報を発信しています。
ぜひフォロー・チャンネル登録してね！

【 令和3年度 記事掲載状況一覧 】

No	掲 載 日	媒体名	記事タイトル等
1	2021年6月3日	盛岡タイムス	親子ビギナーズキャンプを開催
2	2021年6月1日	広報たきざわ	鞍掛山で山開き式。感染対策し2年ぶりに開催
3	2021年7月15日	盛岡タイムス	募集「国立岩手山青少年交流の家ー小学1～3年対象ースタンプのデザインをかこう！」
4	2021年7月6日	acute	オープンテンパークキャンプ場
5	2021年8月1日	広報たきざわ	滝沢市×テンパーク「コラボ企画で3番勝負！」
6	2021年8月15日	広報たきざわ	滝祭2021「10月の土日(予定)に開催日程を変更します
7	2021年8月28日	acute	テンパークスタンプラリー31
8	2021年9月6日	岩手日報	児童対象初の開催テント設営や炊事体験「命守る防災キャンプ」滝沢・岩手山交流の家
9	2021年9月9日	盛岡タイムス	12、19、26日にスタンプラリー 岩手山青少年交流の家
10	2021年9月28日	acute	テンパークスタンプラリー46
11	2021年10月1日	広報たきざわ	自助・共助の意識を育む 防災キャンプで児童が学ぶ
12	2021年10月9日	盛岡タイムス	幼児・小学生とその保護者対象 第3弾テンパークスタンプラリー
13	2021年10月16日	盛岡タイムス	幼児・小学生とその保護者対象 第3弾テンパークスタンプラリー
14	2021年10月23日	盛岡タイムス	幼児・小学生とその保護者対象 第3弾テンパークスタンプラリー
15	2021年11月28日	acute	親子ウインターキャンプ
16	2021年12月1日	広報たきざわ	滝沢の魅力を再発見 テンちゃんキャンプ開催
17	2021年12月6日	盛岡タイムス	募集「親子ウインターキャンプ参加募集」
18	2021年12月28日	岩手日報	地域探究成果を発表 葛巻高と雫石高
19	2021年12月28日	acute	テンパークスタンプラリースノーシュー
20	2022年1月8日	盛岡タイムス	テンパークスタンプラリーは滝沢市後の国立岩手山青少年交流の家で9、16、23日開催
21	2022年1月15日	盛岡タイムス	幼児・小学生とその保護者対象「テンパークスタンプラリースノーシュー」

月別利用状況



区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	42	50	71	64	82	98	60	40	21	46	0	22	596
利用者数	1,680	1,797	3,918	3,627	1,808	4,120	3,309	1,970	1,606	1,971	0	562	26,368

施設の利用実績（過去5年間の比較）

単位：人

年 度	総利用者数			研修支援事業			主催事業(教育事業等)			宿泊室 稼働率 %
	合 計	宿 泊	日帰り	小 計	宿 泊	日帰り	小 計	宿 泊	日帰り	
29	112,841	81,898	30,943	91,843	77,733	14,110	20,998	4,165	16,833	51.2
30	111,999	78,535	33,464	89,284	74,248	15,036	22,715	4,287	18,428	51.0
R1	99,658	68,894	30,764	77,525	65,500	12,025	22,133	3,394	18,739	50.3
R2	27,934	13,338	14,596	22,281	12,053	10,228	5,653	1,285	4,368	27.5
R3	26,368	13,417	12,951	20,661	12,248	8,413	5,707	1,169	4,538	20.9

施設の利用実績（過去5年間の比較）

単位：人

年 度	宿泊利用者数	日帰り利用者数	総利用者数	宿泊室稼働率 %
H29年度	81,898	30,943	112,841	51.2%
H30年度	78,535	33,464	111,999	51.0%
R1年度	68,894	30,764	99,658	50.3%
R2年度	13,338	14,596	27,934	27.5%
R3年度	13,417	12,951	26,368	20.9%

